

医療とコミュニケーション

責任者・コーディネーター	人間科学科心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 准教授		
担当講座・学科(分野)	人間科学科心理学・行動科学分野、教養教育センター		
対象学年	1	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義 28 時間 (14 コマ)
期 間	前期		
単 位 数	1 単位		

・ねらい

【学修方針】

対人援助においては、相手のこころや立場、価値観等の理解と尊重が必要となる。本講義では、医療人にとって必要なコミュニケーションの基礎を扱う。

まず、あらゆるコミュニケーションのベースとなる「みること」「きくこと」「伝えること」の多様性について学ぶ。また障がいをもつ人々との情報交換のあり方も含め、医療現場で必要なコミュニケーションの種類とその心構えについて理解できるようにする。

コミュニケーションにおいては情報の収集と、それらの分類・理解、そしてそれらをしっかり受け止め、正しく発信することが必要となる。本科目ではそれらの実現のための基本的なことがらを学修する。また医療面接手法との関連もある、コーチングという対話の仕方について理解を深める。

本科目の学修を通じ、コミュニケーションの多様性と可能性の実態を理解し、医療人に必要なコミュニケーションの種類と方法の留意点を認識し、実践できるようになるための土台作りを目指す。

【教育成果】

1. 医療におけるコミュニケーションの基礎を学修することで、対人理解と対人援助のための基本的な知識と態度を習得できる。
2. 相手の状況を想像し、相手の立場に立った援助ができるようになる。
3. 他者配慮的態度を修得することで、チーム医療に寄与できるコミュニケーション能力を身に着け、実践することができる。

・学修目標

- (1) 医療人にとって必要なコミュニケーションについて基本的なことがらを説明することができる
- (2) 情報を正しく受け取り、わかりやすく伝達することができる。
- (3) 相手の自己肯定感を上げるコミュニケーションのポイントを理解し、実践することができる。
- (4) 障がい者のコミュニケーションの実態について理解することができる。
- (5) 意志、情報の伝達に必要な要素について説明できる。
- (6) 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。
- (7) 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることについて例を挙げて説明できる。
- (8) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。
- (9) 相手の心理状態とその変化に配慮した対応について、その具体例を説明することができる。
- (10) 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。
- (11) 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。
- (12) 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。
- (13) 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる
- (14) 地域における疾病予防や健康維持増進のために薬剤師が果たす役割を概説できる。

(15) 個々の患者・生活者に寄り添い、身体的、心理的、社会的特徴の把握に努め、その思いを受け止めて患者・生活者を全人的・総合的に理解することができる。

・薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）対応項目

B-1-2 患者中心の医療、B-2-1 対人援助のためのコミュニケーション、B-2-2 多職種連携、B-3-1 地域の保健・医療、F-5-1 医療・福祉・公衆衛生現場で活躍するための基本姿勢

・学修事項

(1) 患者・患者家族の心理
(2) 全人的医療
(3) 患者のナラティブ
(4) 医療者-患者関係が治療に及ぼす影響
(5) 医療コミュニケーションの技法（コーチング、傾聴、受容、共感等）
(6) 他の医療、保健、介護、福祉関係者の職能の理解
(7) 相手の意見を尊重しつつ自身の考えや感情を適切に伝えるためのコミュニケーション
(8) 地域の保健・医療に関わる機関・組織
(9) 患者・生活者の生活全般を広く観察し、その人らしい人生を支える医療の観点からその人に薬剤師として何かができるかを常に考える

・この科目を学ぶために関連の強い科目

多職種連携のためのアカデミックリテラシー

・この科目を学んだ後につなげる科目

医療面接の基礎

・講義日程

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/18	金	3	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	医療におけるさまざまなコミュニケーション【双方向授業】【ICT（WebClass）】 1.さまざまな現場や対象者（年齢、障がい等）とのコミュニケーションについて学び、その特徴を述べるができる。 2.言語的・非言語的コミュニケーションについて学び、その特徴を説明できる。 事前学修：どのような医療現場とコミュニケーションの特徴があるか、インターネット等で調べ、ま

					とめる 事後学修：講義資料を復習する。 ワークをふりかえる。
4/24	木	1	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	地域医療におけるさまざまなコミュニケーション【グループワーク】【双方向授業】【ICT（WebClass）】 1.地域医療現場に必要なコミュニケーションを検討するため、現代社会を取り巻く状況（少子高齢化やジェンダーギャップ、メンタルヘルス問題（自殺問題含む）等）への理解を深める。 2.地域医療において、患者や家族の立場にたったコミュニケーションとはどういうものかについて、自身の考えを述べることができる。 事前学修：1 回目講義資料を復習する。 事後学修：WebClass での確認テストに取り組み、結果のフィードバックを受ける。医療人としてのコミュニケーションのあるべき姿について、要点をまとめる。
5/1	木	3	教養教育センター 心理学・行動科学分野	平野 順子 非常勤講師 藤澤 美穂 准教授	コーチング1：コーチングの概要【ワーク】 1.コーチングとティーチングの違いを説明できる。 2.コーチングの価値と可能性を理解できる。 事前学修：「コーチング」についてインターネットなどで調べる。 事後学修：講義内容を実践する。
5/8	木	1	教養教育センター 心理学・行動科学分野	平野 順子 非常勤講師 藤澤 美穂 准教授	コーチング2：相手の話を聴く姿勢【ワーク】 1.傾聴することの重要性を理解できる。 2.傾聴の基本を実践できる。 事前学修：前回の講義資料を復習する。 事後学修：講義内容を実践する。
5/15	木	1	教養教育センター 心理学・行動科学分野	平野 順子 非常勤講師 藤澤 美穂 准教授	コーチング3：相手を認めるメッセージ【ワーク】

					1.相手を認めることの重要性を理解できる。 2.自己肯定感を高めるメッセージを伝えることができる。 事前学修：前回の講義資料を復習する。 事後学修：講義内容を実践する。
5/22	木	1	教養教育センター 心理学・行動科学分野	平野 順子 非常勤講師 藤澤 美穂 准教授	コーチング4：相手の答えを引き出す質問【ワーク】 1.質問の種類を説明できる。 2.答えを引き出す質問をすることができる。 事前学修：前回の講義資料を復習する。 事後学修：講義内容を実践する。
5/29	木	1	教養教育センター 心理学・行動科学分野	大関 信隆 非常勤講師 藤澤 美穂 准教授	自閉症児（ASD）のコミュニケーション【双方向授業】 1.ASDの言語理解や対人認知、その他の認識の特長について理解できる。 2.ASDと上手に関わり、安心して生活できる環境の作り方を提案できる。 事前学修：1・2回目の講義資料を復習する。 事後学修：講義資料を復習する。 形成的評価：WebClassによる「理解度チェック」に取り組み、結果のフィードバックを受ける。
6/5	木	1	教養教育センター 心理学・行動科学分野	塩谷 昌弘 非常勤講師 藤澤 美穂 准教授	宮澤賢治「永訣の朝」を読む 1.宮澤賢治「永訣の朝」について説明することができるようになる。 2.他者（作者）の意図を考えられるようになる。 事前学修：宮澤賢治についてインターネットなどで調べる。 事後学修：講義資料を復習する。
6/12	木	1	教養教育センター 心理学・行動科学分野	塩谷 昌弘 非常勤講師 藤澤 美穂 准教授	宮澤賢治「眼にて云ふ」を読む 1.宮澤賢治「眼にて云ふ」を読むことで、非言語的コミュニケーションについて説明できるようになる。

					る。 2.詩を読むことを通して、他者への理解を深めることができる。 事前学修：前回の講義資料を復習する。 事後学修：講義資料を復習する。
6/19	木	1	教養教育センター 心理学・行動科学分野	塩谷 昌弘 非常勤講師 藤澤 美穂 准教授	宮澤賢治「やまなし」を読む 1.宮澤賢治の「やまなし」を読むことで、発話の体系について説明することができるようになる。 2.他者の発話の在り方に注意を向けられるようになる。 事前学修：前回の講義資料を復習する。 事後学修：講義資料を復習する。
6/26	木	1	教養教育センター 心理学・行動科学分野	塩谷 昌弘 非常勤講師 藤澤 美穂 准教授	宮澤賢治「猫の事務所」を読む 1.宮澤賢治の「猫の事務所」を読むことで、組織のなかのコミュニケーションについて考えられるようになる。 2.差別の構造について説明することができるようになる。 事前学修：前回の講義資料を復習する。 事後学修：講義資料を復習する。
7/3	木	1	教養教育センター 心理学・行動科学分野	塩谷 昌弘 非常勤講師 藤澤 美穂 准教授	宮澤賢治「よだかの星」を読む 1.宮澤賢治の「よだかの星」をコミュニケーションの視点から読むことができるようになる。 2.他者の「生」の在り方に意識的に注意を向けられるようになる。 事前学修：前回の講義資料を復習する。 事後学修：講義資料を復習する。
7/10	木	1	教養教育センター 心理学・行動科学分野	塩谷 昌弘 非常勤講師 藤澤 美穂 准教授	宮澤賢治作品とコミュニケーション 1.宮澤賢治作品とコミュニケーションとを関連させて説明することができる。 2.コミュニケーションの多様な様態について説明することができる。

					事前学修：前回の講義資料を復習する。 事後学修：講義内容を復習する。講義で扱われなかった宮澤賢治作品を読み、講義で得た気づきと関連づける。
7/17	木	1	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	相互尊重的なコミュニケーションの実現のために 【グループワーク】【双方向授業】【ICT (WebClass)】 1.相手の立場にたったコミュニケーションとは何かを考えることで、医療人となる自分が今後身につけるべき態度・技能は何であるか、述べることができる。 事前学修：1・2 回目の講義資料を復習する。 事後学修：講義資料を復習する。ワークをふりかえる。

・ディプロマポリシーとこの科目関連

1. 薬剤師として医療に携わる職業であることを理解し、高い倫理観と豊かな人間性、及び社会の変化に柔軟に対応できる能力を有しているもの。	△
2. 地域における人々の健康に関心をもち、多様な価値観に配慮し、献身的な態度で適切な医療の提供と健康維持・増進のサポートに寄与できるもの。	◎
3. チーム医療に積極的に参画し、他職種の相互の尊重と理解のもとに総合的な視点をもってファーマシューティカルケアを実践する能力を有するもの。	○
4. 国際的な視野を備え、医療分野の情報・科学技術を活用し、薬学・医療の進歩に資する総合的な素養と能力を有するもの。	

・評価事項とその方法

【成績評価方法】

総括評価：ワークシート・レスポンスシート記載内容（50%）、確認テストの成績（10%）、期末レポート（40%）によって総合的に評価する。ワークシート・レスポンスシート記載内容は、シートに記載された内容および WebClass に入力・提出された内容を対象とし、初回講義で示す「ワーク評価基準」に従い評価する。確認テストは MCQ：多肢選択式問題を WebClass から出題する。期末レポートは共通 1 題＋選択式 1 題の、計 2 題を出題し、WebClass からの提出を求める。

形成的評価：7 回目の講義にて WebClass より「理解度チェック」を実施し、理解度・到達度を確認する。理解度チェックの結果は WebClass からフィードバックする。理解度チェックの結果は成績には反映しない。

学修事項	DP	中間試験	レポート	確認テスト	定期試験	発表	その他	合計
1、2、4、5	2		20	5			ワーク等 25	50
3	1						ワーク等 15	15
6、7、8	3		20	5			ワーク等 10	35
合計			40	10			50	100

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	スタディ・ナビゲーション	人間科学科・附属図書館	岩手医科大学	2025
参	人材育成で大切なこと 人の可能性を引き出すコー チングの真の価値	平野 順子	Book Trip	2021

・特記事項・その他

ワークシート・レスポンスシートへの記載・入力内容については、内容に応じて翌回の講義内でフィードバックをおこなう。適宜 WebClass からフィードバックをおこなう。

WebClass での確認テストを実施する回を設定する。結果は WebClass にてフィードバックする。

各回講義に対する事前学修の時間は最低 20 分以上を要する。

各回講義に対する事後学修の時間は最低 30 分以上を要する。

期末レポート作成のため 320 分間程度の時間を確保する必要がある。

期末レポートの締切は、8 月 10 日とする。

期末レポート評価後に講評・解説等を WebClass にておこなう。

【事前学修・事後学修のポイント】

事前学修：講義内容の確認をした上で、関連する事項をインターネットや図書館で検索し、問題点を抽出しておくこと。

事後学修：講義資料を確認し、ワークでおこなった内容をふりかえり、自分なりにまとめておくこと。興味をもった箇所やわからなかった箇所を図書館の文献等で調べること。

講義で身につけたさまざまなコミュニケーションの方法を、実生活や実習の現場で応用する。

成績開示方法：成績確定後、希望者には結果開示と講評をおこなう。

当該科目に関連する実務経験の有無 有：様々な領域の専門家による講義が含まれ、多様な価値観や広い視野に立った物の見方や考え方を学ぶ。保健・医療・福祉・学校臨床現場での実務経験をもつ臨床心理士・公認心理師有資格教員が、現場におけるコミュニケーションに関する実践例に基づきながら講義をおこなう回が含まれる。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型 PC (MacBook Air MD711J/A)	1	講義資料の提示
講義	プロジェクター	1	講義資料の提示
講義	エルモ書画カメラ	1	講義資料の提示
講義	デスクトップ PC (iMac (Retina 5K, 27-inch, 2017))	1	講義資料の作成